

2023年3月期 決算補足説明資料

2023年5月11日



品川リフラクトリーズ株式会社

目次

1. 連結業績ハイライト
2. 営業利益の増減要因
3. セグメント別売上高及び営業利益
4. セグメント別概況①耐火物及び関連製品
5. セグメント別概況②エンジニアリング
6. 次期・連結業績見通し
7. 次期・営業利益の増減要因見通し
8. トピックス（海外ビジネス）

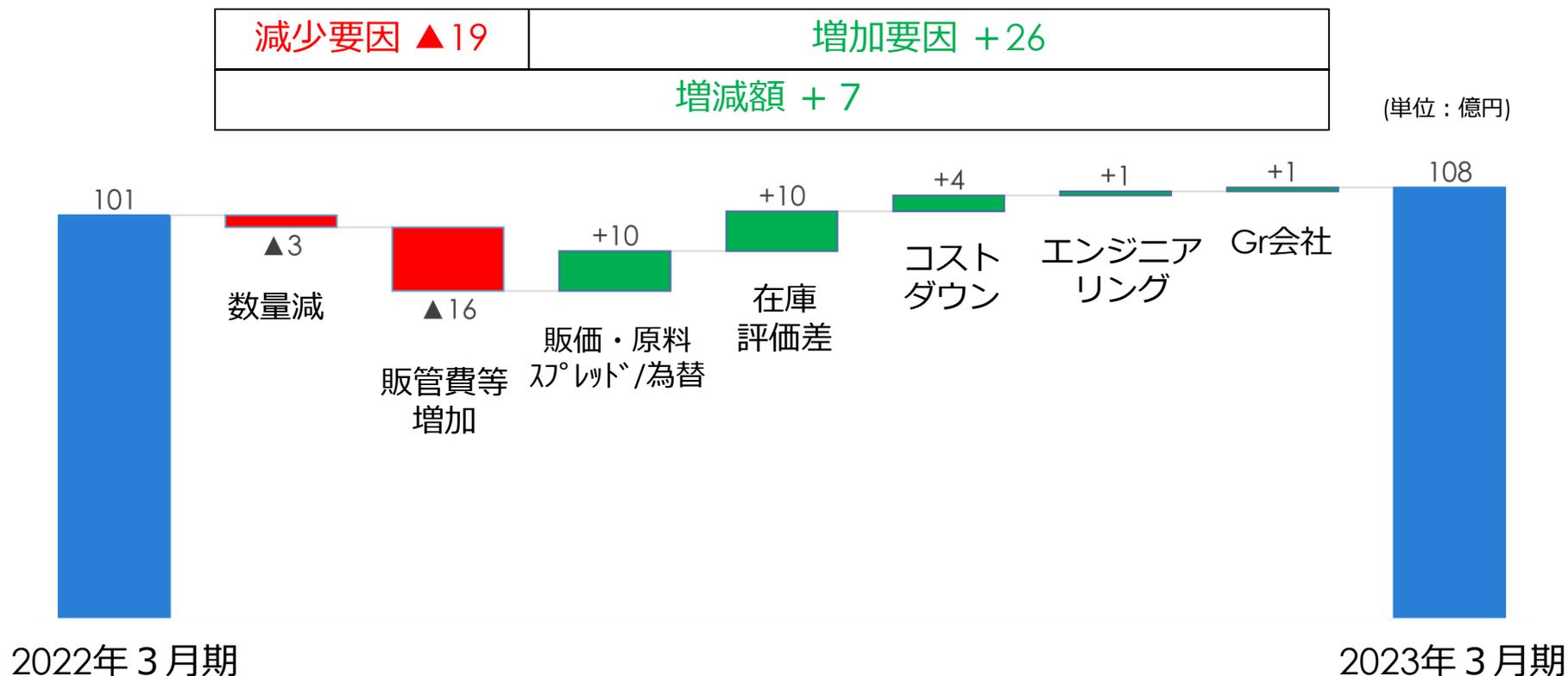
1.連結業績ハイライト

(単位：億円)

	2022年3月期 実績	2023年3月期 実績	前期比	
	売上高	1,107	1,249	+141 (+12.8%)
	営業利益	101	108	+7 (+7.3%)
	経常利益	107	114	+7 (+6.9%)
	親会社株主に帰属する当期純利益	53	83	+30 (+56.5%)
<指標>	ROS (営業利益)	9.1%	8.6%	- (▲0.5pt)
	ROE	8.8%	13.0%	- (+4.2pt)

- 2023年3月期 国内粗鋼生産量は前期比8.1%減の8,785万トン。
- 高騰する耐火物原料価格の销售价格への転嫁が進んだこと及び在庫評価益等により、過去最高の業績達成。
- 急激な耐火物原料価格上昇による販価改定の一部未反映分については次期にて回収。
- 遊休資産（さいたま市浦和区）の売却益等により、親会社株主に帰属する当期純利益56.5%増。

2. 営業利益の増減要因



国内粗鋼生産量減少による数量減、定年延長に伴う制度改定等による販管費等増加のマイナス影響に対し、販価・原料スプレッドの確保/為替変動への対応、在庫評価差等により、前年度比+7億円の増益。

3.セグメント別売上高及び営業利益

(単位：億円)

		2022年3月期 実績	2023年3月期 実績	前期比	
耐火物及び 関連製品	売上高	849	994	+145	(+17.2%)
	営業利益	94	102	+8	(+8.9%)
エンジニアリング	売上高	248	244	▲4	(▲1.7%)
	営業利益	18	19	+1	(+8.6%)
不動産	売上高	9.8	9.9	+0.1	(+1.5%)
	営業利益	4.3	4.9	+0.6	(+12.2%)
合計	売上高	1,107	1,249	+141	(+12.8%)
	営業利益	101	108	+7	(+7.3%)

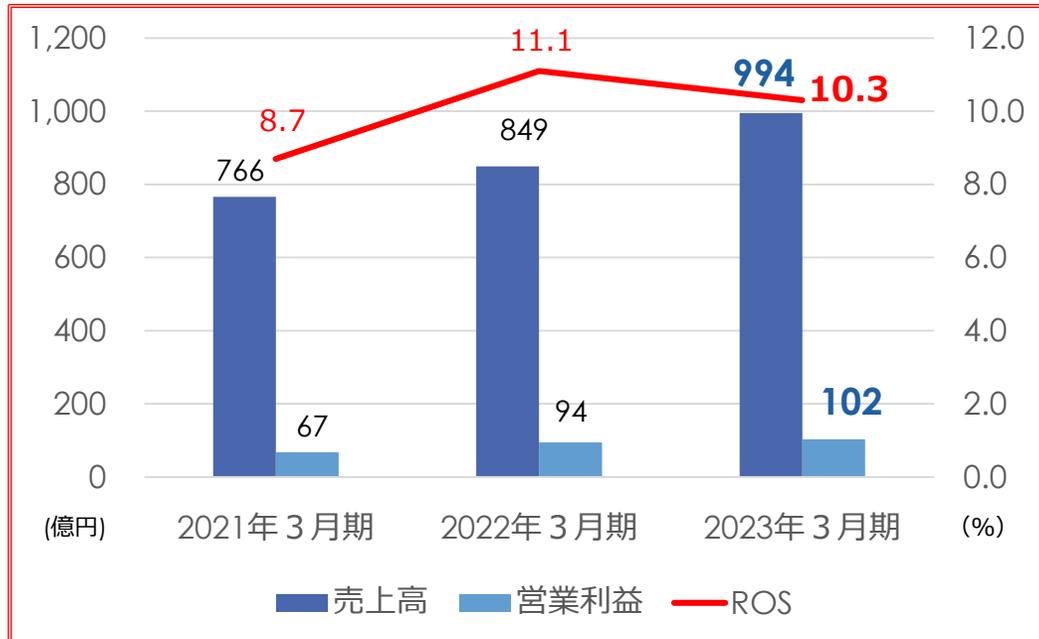
※ 合計額には、各報告のセグメントに配分していない全社費用等（一般管理費）が含まれています

4.セグメント別概況①耐火物及び関連製品

業績推移

(単位：億円)

		2022年 3月期	2023年 3月期	前期比	
耐火物 及び 関連製品	売上高	849	994	+145	(+17.2%)
	営業利益	94	102	+8	(+8.9%)
	ROS (営業利益)	11.1%	10.3%	-	(▲0.8Pt)



業績レビュー

<通期業績について>

- 国内粗鋼生産量は前年度比8.1%減少。
- 市況及び為替変動による原料価格の上昇については、販売価格への転嫁を実施⇒次期においても継続。

<今後の課題>

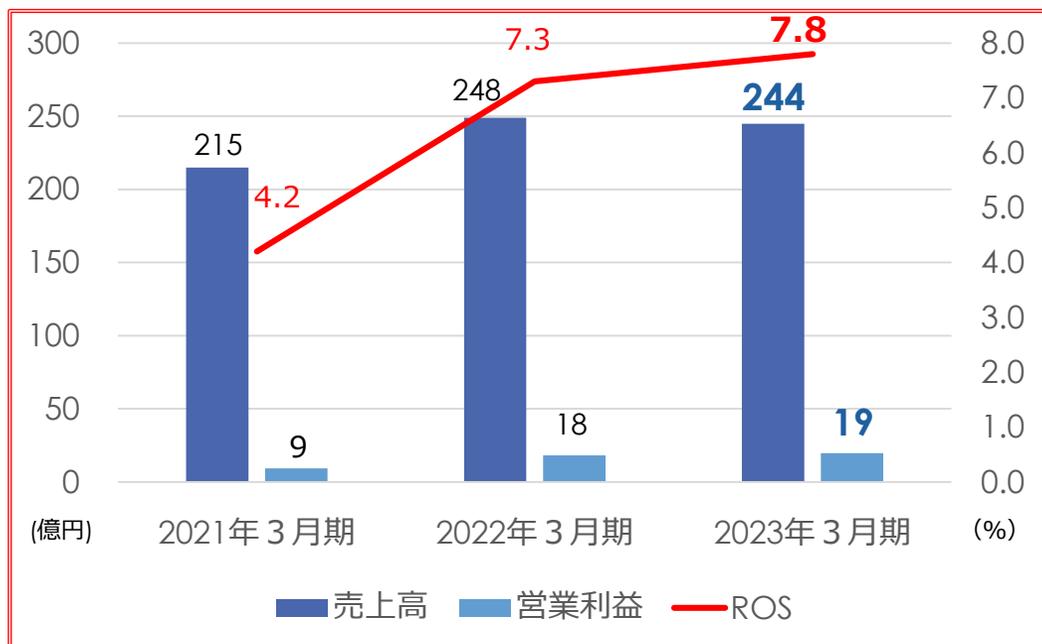
- お客様ニーズに適した改良品・開発品の創出を軸とし、環境配慮型商品の開発・販売に注力。さらに耐火物・断熱材・エンジニアリング技術を融合した熱ロス対策の提案強化。
- お客様の高炉休止等生産体制再編に対応し、当社においても生産体制再構築を進める。

5.セグメント別概況②エンジニアリング

業績推移

(単位：億円)

		2022年 3月期	2023年 3月期	前期比	
エンジニア リング	売上高	248	244	▲ 4	(▲1.7%)
	営業利益	18	19	+ 1	(+8.6%)
	ROS (営業利益)	7.3%	7.8%	-	(+0.5Pt)



業績レビュー

<通期業績について>

- 窯炉補修工事の減少により減収となるものの、工事構成の変動により増益。

<今後の課題>

- 耐火物及び断熱材との一体販売による工業炉等新規分野への進出を加速。
- 既存分野における焼却炉新設工事、各種窯炉の補修作業、建設工事等の確実な受注。
- 西日本地区における危険体感訓練所設立（2022年4月）に続き、東日本地区にも訓練所を新設し、安全への取り組みを強化。

6.次期・連結業績見通し

(単位：億円)

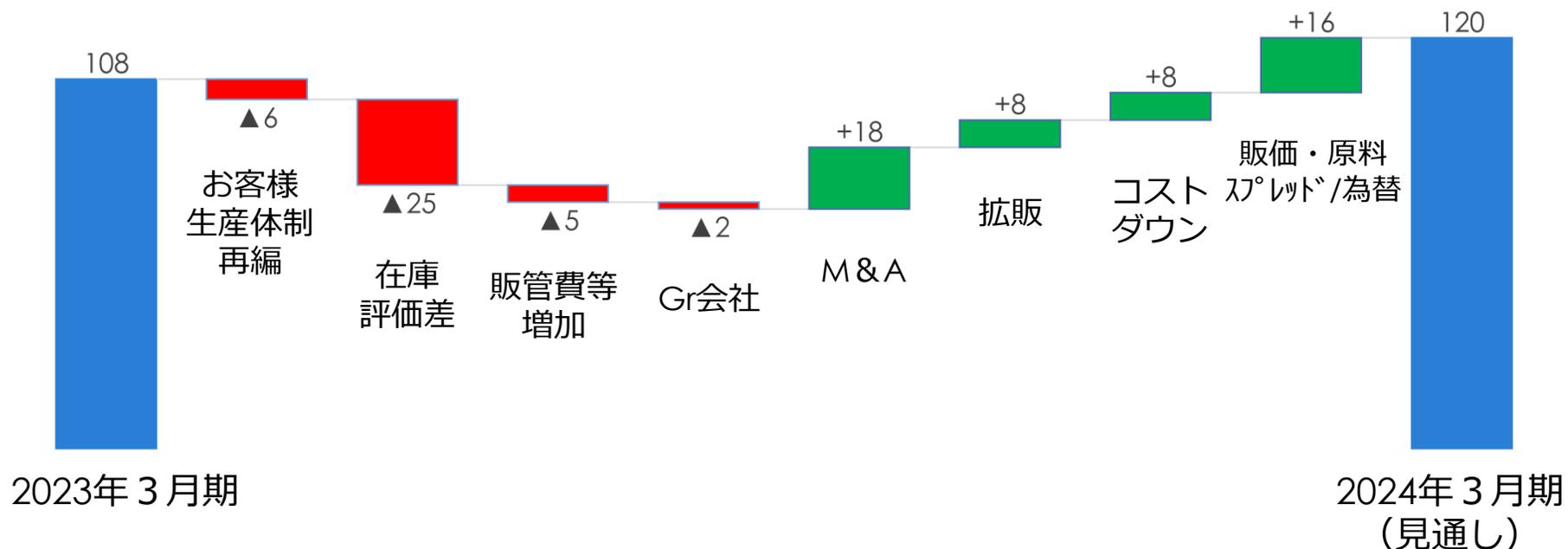
	2023年3月期 実績	2024年3月期 見通し	前期比	
売上高	1,249	1,400	+150	(+12.0%)
営業利益	108	120	+11	(+10.7%)
経常利益	114	120	+5	(+4.7%)
親会社株主に帰属 する当期純利益	83	120	+37	(+44.6%)
<指標> ROS (営業利益)	8.6%	8.6%	-	(-)

- 2024年3月期 国内粗鋼生産量は前期比 微増の見通し
- 前期の急激な原料価格上昇による一部未反映分や原燃料・電力費アップに伴う販価改定、M&Aによる事業拡大等により、過去最高業績の更新を目指す。
- 遊休資産（名古屋市港区）の売却益等により、親会社株主に帰属する当期純利益は前年度比44.6%増の見込。

7.次期・営業利益の増減要因見通し

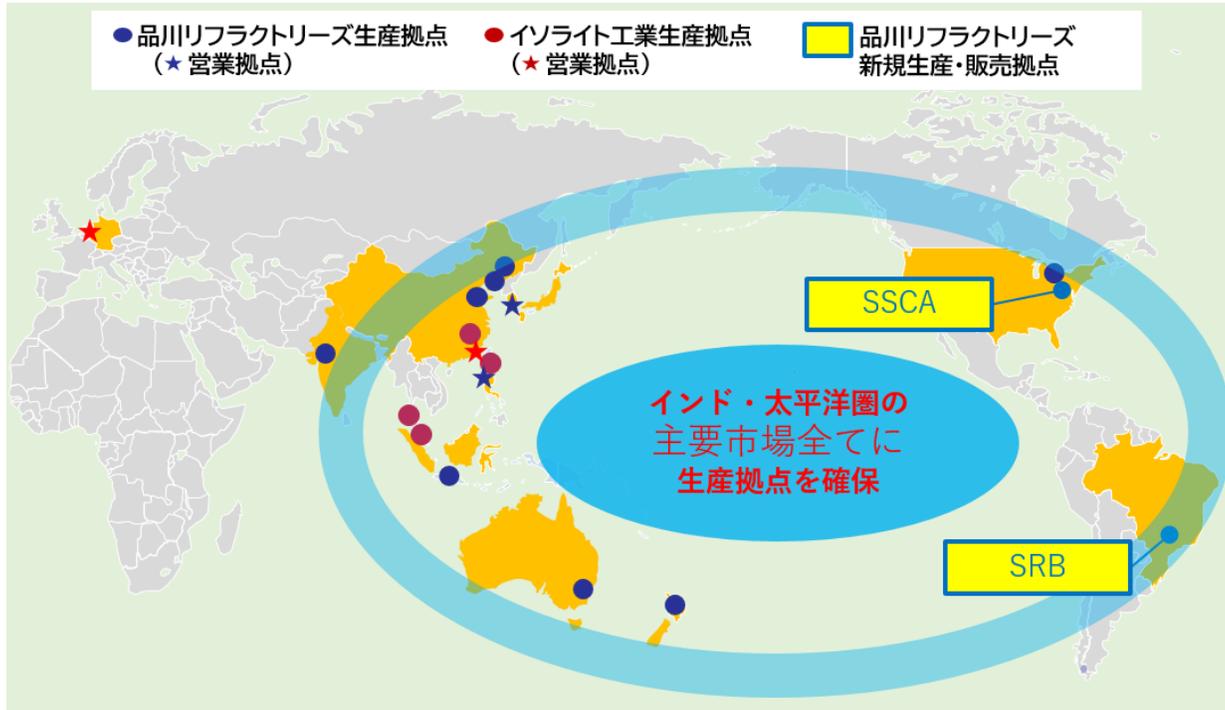
減少要因 ▲38	増加要因 +50
増減額 +12	

(単位：億円)



お客様の生産体制再編、在庫評価差等のマイナス影響に対し、M&A（ブラジルSRB、米国SSCA）による事業拡大、拡販、コストダウン、早期の販価・原料スプレッド確保を進めることで、前年度比+12億円の増益見込。

8.トピックス（海外ビジネス）



新規生産販売拠点	SRB	SSCA
事業内容	耐火物の製造販売	耐摩耗性セラミックスの製造販売
所在地	ブラジル サンパウロ州	米国 ペンシルベニア州
資本金	192百万伯レアル	7百万米ドル
従業員数 (2022年12月末現在)	365名	53名

海外事業・米州市場における生産・販売拠点の体制強化

2022年12月、サンゴバン社（フランス）より、ブラジル耐火物事業及び米国耐摩耗性セラミックス事業を譲受け、2023年度より当社連結業績に寄与。初年度は売上高133億円、営業利益18億円を見込む。

ご注意

本資料は、2023年3月期決算（2022年4月～2023年3月）の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券への投資を勧誘することを目的としたものではありません。

また、本資料は、2023年5月11日現在のデータに基づいて作成されております。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証又は約束するものではなく、また、今後予告なしに変更されることがあります。